

12・1「NO NUKES えひめ」集会決議

全国のみなさん、四国のみなさん、愛媛県内のみなさん

本日わたしたちは、「NO NUKES えひめ」集会に、愛媛県内から、四国各県から、中国、九州、近畿、関東、福島、全国から大結集しました。

伊方原発は、再稼働の一番手にねらわれています。規制委員会の更田豊志氏は、10月に伊方原発を調査し「非常にいい印象を受けた」と評価し、「先頭集団にいる」とコメントしています。中村時広愛媛県知事は、県の伊方原発環境安全管理委員会に露骨な再稼働推進論者を任命し、オフサイトセンター建設を猛烈にすすめています。根本には、原発に執着する国の政策があります。高濃度の汚染水を流し続ける福島原発の深刻な事態に、全力で対処しようとしなばかりか、原発を世界に売り続けようとする異常な姿勢があります。

今日の集会は、こうした流れをとめるための、広範な人々の認識の広がりと行動を示す場です。この集会は、様々な人たちの参加で作りに上げてきました。音楽イベントを重ねてきた若者たち、障害をもつ人たち、お母さんたちとの共同。そして長く反原発、脱原発、原発ゼロで頑張ってきた人たち。力を合わせて、住民が家族連れで参加できる集会として、音楽を聴き、食し、語り合い、アピールする場として大きく成功させようと奮闘してきました。

伊方原発は沖合6キロに中央構造線があり、地滑り地帯でもあります。最新の知見でも地震の脅威は一段と増しており、原発が強烈な地震動で壊れることを示しています。事故が起きれば避難は困難をきわめます。そして閉鎖性水域の瀬戸内海は死の海になってしまいます。原発は稼働させず、廃炉にするほかありません。人間の倫理からも、放射性廃棄物を子孫に押しつけてはなりません。原発は人類と相容れません。

一刻もはやく、原発から脱却して、安心できる社会をめざしましょう。

わたしたちは、決してあきらめません。全国津々浦々の人々とともに、伊方をはじめすべての原発の再稼働を許さず、廃炉に向けて手を取り合って行動していくことを表明します。

2013年12月1日

「NO NUKES えひめ」集会参加者一同